

令和3年度 幼保小連携推進地区活動報告書
若草幼稚園 むつみ愛児園 宮谷小学校

「スタートプログラム」を活用した幼児期教育から
小学校教育への円滑な接続のあり方を探る

入学前の子どもたちの様子

どんなことを
するのか。

小学校って
どんなところだろう。



わくわく、
どきどきするな。

心配もあるし...

入学後すぐの子どもたちの様子

今日は、どんなことを
するのか。



知らない友達や先生
たちばかりで心配だ。

友達をたくさん
作りたいな。

幼稚園や保育園と
ぜんぜんちがうの
かな。できるかな。

幼児期教育から小
学校教育への円滑
な接続のために

①子どもの理解

②教育内容の共有

子どもの安心へ

子どものよりよい成長
を願って

③職員交流

④子ども同士の交流

子どもの理解

保育園や幼稚園への訪問

- ▶ 入学児童全員の保育園や幼稚園等へ訪問したり、連絡をしたりして、子どもたちの学びや日常の様子を見とるようにしている。

保護者との面談

- ▶ 入学前に心配や不安、わからないことがあるときは、児童専任が、窓口になり、保護者の相談にのることができるような組織づくり

要録の活用

- ▶ 入学前に子どもたちの学びの履歴や生活の様子を把握し、小学校生活の指導や支援に生かせるようにしている

養育センター等への連絡・訪問

はじめの1ヶ月は、仮編成クラスで

子どもへの理解を深め、きめ細やかな対応ができるように

保育園や幼稚園の友達をできるだけ同じクラスにし、安心して過ごすことができるようにする。

- 入学後1か月間を（そら・ほし・はな・つき）の仮の学級で過ごす。
- 宮谷小のスタートカリキュラムで学校生活を送る。

学年の担任が数日ずつ順番にクラスに入り、学年全体の児童とかわり、顔なじみの関係づくり。担任同士で情報の共有を進める。

どのクラスも同じ学習計画・同じ指導を行うので、子どもも保護者も安心できる。



生まれ月への配慮

要録や保育園や幼稚園の訪問を参考に子どもへの対応を考える。

高学年専科の入学後1か月間のサポート（学校全体で入学児童を見守る組織づくり）→各クラス2人の職員体制

1か月後、子どもの様子を見ながら **本編成**

教育内容の共有

○スタートプログラムの見直しと実施

職員交流で得たそれぞれの幼稚園や保育園の教育内容をもとに、スタートカリキュラムを見直し、実施。

幼稚園、保育園、小学校に同じ本を置くことで、子どもたちが、本を身近に感じられるだけでなく、小学校も身近に感じられるように。

* **なかよしタイム**・・・新しい先生や友達との関係を広げていく時間

手遊び、歌、本の読み聞かせなどから一日がスタート

* **わくわくタイム**...主体的な学びをつかっていくために生活科を中心に他教科と関連させながら教科学習に円滑につなげていく時間

学校探検などをして、学校の生活のマナーやきまりを確認できるように

* **ぐんぐんタイム**...なかよしタイムやわくわくタイムで興味をもったことをもとに教科学習へ徐々に移行し、教科等の見方や考え方を身につけていく時間

教の学習やひらがな学習

幼保小交流会

- ▶ 今年度は、感染症予防の観点から、動画での交流会とした。

実行委員会の立ち上げ

保育園や幼稚園の子が喜んでくれたり、楽しんでくれたりすることってどんなことかな。



クラスで話し合ってみよう

今年の保育園や幼稚園の友達との交流会は、どんな会にしようかな。

交流会の動画づくりにむけてのクラスでの話し合い

小学校と幼稚園・保育園でちがうところはどこだろう

楽しかった生活のお勉強を
教えてあげたいな

学校の様子を伝えたい

おすすめの給食について紹介したいな

朝のしたくのやり方を
教えてあげたいな

各クラスでの交流会に向けての動画づくり

生活で勉強した昔遊びの楽しさを、年長さんに
教えたいな。



各クラスでの交流会に向けての動画づくり



休み時間の過ごし方を
いろいろ教えたい。楽しく、
安全に校庭を使って
ほしいな。

職員交流【児童の共有】

- ▶ 顔の見える関係づくり
○職員同士が顔見知りになることで、
気軽に声をかけたり、相談しやす
くなった。
- ▶ 子どもたちの成長の様子の共有
○子どもたちの成長の様子を共有す
ることで、教育内容の改善を図っ
たり、子どもたちへのさらなる支
援の仕方を工夫することができた。

成果と課題

○教職員の直接の対話によって、子どもたちの学びの履歴や子どもたちの成長の様子について共通理解が得られたことで、スタートカリキュラムなどの改善につながった。

○入学前の子どもたちの様子を事前に把握することで、個々の子どもにどのように接していけばよいかなどを職員で共有することができた。

△園児にとって、繰り返し小学校と関わることで就学への安心感につながっていくと考えられるが、今年度は、直接交流の機会がなかなか取れなかったのが課題として残る。

△幼稚園や保育園での学びや対応の仕方について、定期的に情報交換する必要がある。(学校規模が大きいため、情報交換する園が多くなることも課題。)